

スポーツ競技における戦略について
—びわスポ大スポーツクラブにおける戦略について—
宇野 博(競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)
指導教官 望月 聡

キーワード：戦略、勝利、大学スポーツ、キャプテン、伝達、伝統

1. 緒言

競技スポーツにおける強いチーム作りに必要な要素として、基礎体力の養成、各競技特有の技術の習得及びメンタル面の強化とともに、相手に勝つための戦術・チームを強くするための戦略があげられる。

もともと戦略とは軍事用語であり、戦争に勝つための総合的、長期的な計略、駆け引きである。その戦略を取り入れ、成功を収めた実業家をはじめ勝負の世界に生きる人々も多い。中でも、東洋戦略論のバイブル『孫子』は、2,500年前に書かれたものであるが、マイクロソフト創業者ビルゲイツやソフトバンクの孫正義氏、また、サッカー界では、ルイス・フェリペ・スコラーリが座右の書として戦略を紡ぎだしたことは有名である。一方、西欧戦略論の雄カール・フォン・クラウゼヴィッツが19世紀初頭書き残した『戦争論』は、ゼネラル・エレクトリック CEO ジャック・ウェルチ氏が『戦争論』から戦略を学んだことを自伝で記している。

また、本学が来年度で開学10周年を迎える。これに当たり、本学各クラブがスポーツ大学の名に恥じない、関西、さらには日本を代表するスポーツクラブに成長するための道を探るときと判断した。

本研究では、このような先人の戦略を考察し、今の大学スポーツ界で真に生かせる「戦略」とは何か、および、本学において前述のようなスポーツクラブとして成長するために活かせる戦略はどのようなものがあるのかを比較検討する中で、探ることを目的とする。

2. 研究方法

1) 調査対象

調査対象は、次の通りである。

- ・ 本学スポーツクラブのキャプテン及び主要選手
- ・ 関西における強豪チームといわれる大学のクラブ

2) 調査方法

調査の内容は、日ごろから、選手自身がどのような戦略の基に練習や試合に臨んでいるのかなどについて、次の方法で調査した。

本学のクラブに対しては、アンケート調査用紙を用い、強豪チームを持つ大学に対しては、インタビューという方法で行った。

3. 結果と考察

結果については、多くのことが得られたが、ここでは、もっとも重要なポイントと考えられたものを報告する。

まず、本学各クラブは、いずれのクラブも相手チームの情報を入手し、分析して試合に臨んでいた。しかし、先人の戦略で重要とされている自分たちのチームの分析を怠っていることが判明した。

自己分析は、多くの場合的確に判断しにくいものである。そのため、チーム内で客観的視点を持つため、相互チェックを行うなどの体制を整える必要があると考えられる。

さらに、成績を向上または維持、来年度以降に向上を目指せるチームは、次期チームの構成員に対して目標や活動についての基盤方針などに関する伝達を行っていた。この動きは、チーム全員が前期チームから目標を含め様々な情報を理解し共有する機会となる。また、これが、長期にわたるチームの状態把握、さらには的確な問題解決を可能とし、成績向上、または維持に影響を与えていると考えられる。

以上、2点は、今後本学が伝統校に並び追い越すためにもっとも重要な要素と考えられる。

4. まとめ

本研究において、本学のスポーツチームが、今後成績を向上していくために必要かつ重要な戦略が、前述の2点であることがわかった。今後は、これらが、今後のクラブ活動に活かされていくことを望む。

参考文献

- 『五輪書』宮本武蔵 全訳注 鎌田茂雄 講談社学術文庫 1986年
- 『スポーツ戦略プロジェクト研究会報告 2006』東海大学紀要体育学部
- 『孫子・戦略クラウゼヴィッツその活用方程式』守屋 淳 プレジデント社 2007年